

○エネマナハウス2015評価項目・評価基準

		評価項目	評価基準	備考	採点方法	配点	合計	
I 審査員による評価	A 提案内容の有望度に対する評価	A-1. コンセプト・アイデア	・テーマ設定に対して、提案されている住宅のコンセプト、アイデアが明確に示されているか。また、その内容は本事業のテーマ、コンセプトに沿っているか。 ・居住者の家族構成や年齢、ライフスタイル等がわかりやすく設定されているか。また、その内容は提案されている住宅のコンセプト、アイデアに整合しているか。 ・コンセプト、アイデアに独創性・先進性が見られるか。		◆A～Dの4段階評価 A: 特に優れている(×1.0) B: 概ね優れている(×0.7) C: 評価できる点もある(×0.4) D: 抜本的な改善が必要(×0.1)	30	100	
		A-2. 省エネルギー効果	・同規模程度の標準的な住宅に比べて、7～8割程度の省エネルギー効果が見込まれるか。 ・省エネルギー効果の計算方法や前提条件が明確に示されているか。 ※横浜市に建築することを想定。			20		
		A-3. 技術	・提案されている技術が、コンセプト、アイデアと整合しているか。 ・提案されている技術に独創性・先進性が見られるか。 ・設計・建築プロセス(工法等)に先進性が見られるか。 ※ここでいう技術には、躯体・設備機器だけでなく、建築計画や施工性等も含む。また、「エネルギー」の観点だけでなく、快適・健康等といった「ライフ」や、東南アジア等への移転可能性という観点も対象とする。			20		
		A-4. 実行力	・事業の目的や提案内容に対し、業務を遂行する上で適正な実施体制が構築できているか。 ・実施体制において、事業の実現可能性を高めるための工夫や役割分担が明確に示されているか。			10		
		A-5. 教育・啓発・コミュニケーション	・事業の実施により、学生の教育や産学連携の促進等の効果が見込まれるか。また、その事業計画が明確に示されているか。 ・事業の実施により、消費者の省エネルギー意識の向上やZEHの普及啓発が見込まれるか。また、その事業計画が明確に示されているか。			10		
		A-6. 将来的な普及・展開	・提案されている住宅や製品・システムを、将来的に実用化できる見込みがあるか。また、消費者にとって魅力的な商品となり得るか。 ・提案されている住宅のコンセプトや部品、システムの一部または全体を、東南アジア等に展開するための具体的な方策が示されているか。			10		
	B 提案内容の実現度・完成度に対する評価	B-1. コンセプト・アイデア	・「①エネルギー」、「②ライフ」、「③アジア」という3つのテーマ設定に基づく提案住宅のコンセプト、アイデアが、実際の住宅において具現化されているか。 ※夏季や冬季を含む年間を通しての気候等への対応も含む。		◆A～Dの4段階評価 A: 特に優れている(×1.0) B: 概ね優れている(×0.7) C: 評価できる点もある(×0.4) D: 抜本的な改善が必要(×0.1)	30	100	
		B-2. 省エネルギー効果	・同規模程度の標準的な住宅に比べて、7～8割程度の省エネルギー効果が実現されているか。 ・夏季や冬季を含め、年間を通して優れた省エネルギー設計が具現化されているか。			20		
		B-3. 技術	・提案されている技術が、コンセプト・アイデアと整合しつつ、実際の住宅において具現化されているか。 ※ここでいう技術には、躯体・設備機器だけでなく、建築計画や施工性等も含む。また、「エネルギー」の観点だけでなく、快適・健康等といった「ライフ」や、東南アジア等への移転可能性という観点も対象とする。			20		
		B-4. 実行力	・事業の目的や提案内容に対し、業務を遂行する上で適正な実施体制が実際に構築され、的確な役割分担がなされていたか。 ・設計、施工の完成度は優れているか。			10		
		B-5. 教育・啓発・コミュニケーション	・事業の実施において、学生の教育や産学連携の促進等のための工夫が見られたか。また、それらの効果が実現されたか。 ・事業の取組について積極的に情報発信を行い、ユーザー(一般消費者)の省エネ意識の向上に貢献できたか。 ※各大学からのプレゼンテーションの中で、情報発信・普及促進活動の取組状況等について説明していただく。	・プレゼンテーションの際に、映像等を作成していただき、審査員に提示		10		
		B-6. 将来的な普及・展開	・完成した住宅の評価や製品・システムを将来的に実用化できる見込みがあるか(事業性・商用性)。 ・完成した住宅の評価として、市場への浸透性という観点から、ユーザー(一般消費者)にとって魅力的な商品となり得るか(商品力)。 ・完成した住宅のコンセプトや部品、システムの一部または全体を、東南アジア等への展開が見込まれるか。	・建築コスト(施工費は除く)を試算していただき、その結果を参考資料として審査員に提示		10		
II 測定結果による評価	C エネルギー	C-1. エネルギー消費量	・暖冷房(調湿含む)、換気、給湯等のエネルギー消費量(電力、ガス)を測定 ※人体負荷として、3名の学生を住宅内に滞在させるものとする。また、生活行動を模擬したタスクを一日の決められた時間帯に実施する。		◆エネルギー消費量が最も少ないチームを満点とし、当該チームを基準として得点率を設定	30	100	
		C-2. 発電量	・太陽光発電、燃料電池による発電量を測定		◆発電量が最も多いチームを満点とし、当該チームを基準として得点率を設定	10		
		C-3. 日負荷率	・暖冷房(調湿含む)、換気、給湯等の電力消費量を対象とし、1日の最大消費電力と平均消費電力を測定し、日負荷率を算出		◆1日の最大消費電力と平均消費電力より、日負荷率を算出。日負荷率の平均値が最も大きいチームを満点とし、当該チームを基準として採点	10		
	D 快適性・健康性	D-1. 温熱環境(温度)	・リビング(計4点)、寝室(計2点)、浴室・脱衣スペース・トイレ(計2点)の3部屋のグローブ温度を測定 ※人体負荷として、3名の学生を住宅内に滞在させるものとする。	・I. 審査員による評価の参考情報として、結果を審査員に提示	◆前年度同時期の平均外気温より算出する基準温度(室温基準値)と平均室温の差分により採点	30		
		D-2. 温熱環境(湿度)	・リビング(計2点)、寝室(計1点)の2部屋の湿度を測定 ※人体負荷として、3名の学生を住宅内に滞在させるものとする。		◆平均湿度により得点率を設定	5		
		D-3. 空気環境(CO2濃度)	・リビング(計1点)、寝室(計1点)の2部屋のCO2濃度を測定 ※人体負荷として、3名の学生を住宅内に滞在させるものとする。		◆平均CO2濃度により得点率を設定	5		
		D-4. 光環境(昼光率)	・全天空照度、及びリビング(計2点)の室内水平面照度を測定		◆全天空照度に対する室内水平面照度の割合の平均値により得点率を設定	5		
		D-5. 音環境(内外音圧レベル差)	・リビング(計1点)、寝室(計1点)の2部屋を対象に、室内と屋外の音圧レベル差を測定 ※外部騒音として、騒音発生装置を設置。		◆内外音圧レベル差の平均値により得点率を設定	5		
	III 来場者投票による評価		・来場者が「最も住みたい」と思う住宅一軒に投票	・タブレット端末を会場出口に複数設置し、退場時に投票したいチームのボタンを押す ・I. 審査員による評価の参考情報として、結果を審査員に提示	(点数はつけない) ※投票数1位の大学を「People's Choice Award」として表彰	—		—